

## 花形についての解説（品種登録係）

1. まず上から花を見て花型を観察して下さい。

(1) 外側に向いた大きな花弁が何枚ありますか？

- ①三枚⇒三英
- ②六枚⇒六英花
- ③それ以上⇒八重咲
- ④肥培管理によっては六枚になったり八重となったりするもの⇒半八重

(2) 花の中心に三方に開いた平棒状器官(雌しべ)がありますが、これを花芯といってとても大切にします。

- ①3本とも整った形をしている⇒整形芯
  - ・雌しべがきちんと三方を向き、先端の小片(爪弁)が爪状に行儀よく並んでいるもの⇒玉洞芯
  - ・雌しべ全体が大きく立ち上がっているもの⇒大立芯、立芯
  - ・反対にやや下方を向いているもの⇒寝芯(寝ても立っても短いものは短芯と呼ばれます)
- ②整形だが3本以上あるもの⇒多芯
  - ・多芯中、一株中で3、4、5、6本に咲き分けるもの⇒五三性(稀に4本や5本に固定するものもあります)
  - ・五三性品種は三、四、五、六英花と、六、八、十、十二英花となる二グループがあります。
- ③4本以上に分かれ崩れた形をしている⇒崩れ芯
- ④雌しべが花弁化してしている⇒台咲き
- ⑤雌しべに鋸歯があり、先端にある爪弁に切れ込みが入っているもの⇒蜘蛛手

(3) 八重咲に見られる大小不同弁(旗弁)を、花奥まで辿って見てください。

- ①これは雄しべが変形したもので、化生雄蕊と呼ばれ多少の花粉が残っています。
- ②この雄しべの花弁化が進み外弁、内弁と合わせて9枚となったもの⇒九英咲
- ③この変化が最高調になると1本の雄しべから2枚の花弁が生じる⇒十二英咲

2. 続いてやや横から全体を眺めます。

(1) 花弁が水平に広がる⇒平咲き

(2) 腕を伏せたように咲く⇒腕咲き

(3) 花弁が垂れ下がる⇒垂咲き(極端にだらりとたれるものを大垂れという)

(4) 厚弁の大輪花がどっしりと垂れるもの⇒深咲き

(5) 平咲きよりも、より上方に向かって伸びるもの⇒受咲き

- ①受咲き中、蓮華のような花型に咲くもの⇒蓮華咲き
- ②受咲性が進行し花弁が抱き合っているもの⇒玉咲き、または抱咲き
- ③さらに変化が進行し弁端が退化、内曲するため竜の爪状になるもの⇒爪咲き

(6) 八重咲きに見られる旗弁の形状によっては、いくつかの呼び名があります。

- ①優雅に重なっているもの⇒八重牡丹咲き(盛上り咲き、狂い咲き)
- ②勢いよく立ち上がっているもの⇒八重獅子咲き(踊り咲、狂い咲き)
- ③全弁とも同大で外観が一行に見えるもの⇒車咲き

3. 最後に1枚1枚の花弁に注目して下さい。

(1) 花弁が細く先が尖っているもの⇒剣弁(野生種の面影を宿している)

(2) 花弁は丸みを帯びているが、花弁と花弁の間に隙間がある⇒矢車咲き(但し六英花のみに用いる)

(3) 花弁が弁元から広がり全体として卵型、扇形等々になって、互いに重なりあっているもの⇒丸弁

(4) 雌しべ、雄しべ、花弁共に整い、よれたり凹凸があつたりせずに素直に垂れる⇒正花

(5) 雌しべ雄しべは整っているが、花弁に変化(芸)があるもの⇒働きある正花

(例: 1日目ビロード弁、2日目縮緬地に変化する。)

(6) 雌しべ雄しべが崩れると共に花弁に襞や凹凸を生じ、変化しながら咲き進むもの⇒働き花

(花弁上の襞や凹凸を波状という)

(7) 花弁の縁が両側共につり上がっているもの⇒樋弁(縁釣ともいい、逆は中高弁という)